

きだ あやさんを 応援します

山田 真

八王子中央診療所
小児科医



今、ぼくたちの未来をあやぶむ声が高まっています。弱者と云われる人たちがますます生きにくくなる社会がつくられようとしています。そんな中で庶民の味方である生活者ネットワークへの期待は大きいのです。ぼくも応援します。

島袋善弘

山梨県立大学名誉教授
めじろ台在住



生活者ネットは食・子育て・介護・環境などを生活の場から考え、人権が保障される平和な社会をつくることをめざしています。生活者ネットの議員は私たち市民が候補者を選び、市民とともに考える議員です。民主主義の理想のかたちをめざしています。

神山美智子 弁護士

中西正司 福祉団体職員

大江正章 ジャーナリスト、コモンズ代表、PARC 共同代表

竹村英明 脱原発政治連盟「緑茶会」代表

中川李枝子 作家

井筒和幸 映画監督

高塩徳美 多摩南生活クラブ生協理事長 館町在住

山内れい子 東京・生活者ネットワーク都議会議員

佐久間寛子 元市議会議員

平岡晴子 元市議会議員

川村美恵子 元市議会議員

なるみゆり 八王子・生活者ネットワーク市議会議員

きだ あやプロフィール

■1981年 静岡県生まれ ■1999年 静岡県立浜松商業高等学校卒業 ■2001年 専門学校舞台芸術学院ミュージカル部本科卒業
 ■2003年 結婚を機に日野市へ転居 ■2008年 八王子市に転居 多摩南生活クラブ生協に加入 ■2010年～多摩南生活クラブ生協まち八王子北まち委員 たすけあい委員長、消費委員長、まち副委員長の経験を経て現在、まちづくり委員 ■2011年 原発都民投票の署名活動に参加 ■2012年 聖公会八王子幼稚園父母会役員 ■2012年～八王子・生活者ネットワーク事務局員 2014年～事務局長 ■2013年～総合学習チームに参加(総合学習チームは、市内小中学校の総合的な学習の時間に「食」や「環境」をテーマにした授業を実施) ■2017年～八王子市立浅川中学校PTA役員
 ●家族：夫と子ども2人の4人家族 ●好きなこと：手書きのレポート・ちらしをつくること 踊ること 絵本の読み語り 麻ひもで編みもの ●裏高尾町在住



<http://kidaaya.seikatsusha.me>

きだ あや 検索

facebook

生活者ネット3つのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

八王子・生活者ネットワークの議員は2期8年で交代します。議員を職業化・特権化せず、人が交代することで参加の層を広げます。任期を終えた議員は市民政治を広げるための活動や地域活動などにその経験を活かします。

2 議員報酬は市民の政治活動資金に

議員報酬は市民の活動資金として使います。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3 選挙はカンパとボランティアで

選挙は政治に参加する入口です。みんなでお金と知恵や労力を出し合い、選挙を行ないます。

カンパ振込先 郵便振替口座 00130-6-546400

八王子・生活者ネットワーク

八王子・生活者ネットワーク

八王子・生活者ネットワーク はつらつレポートNo.167 (北版)

2018年12月15日 発行責任者/若林裕子

〒192-0066 東京都八王子市本町3-4TRYビル3階

TEL: 042-623-8802 FAX: 042-627-4507

mail: hachiouji-net@nifty.com HP: hachiouji.seikatsusha.me

きだ

KIDA AYA

あや

八王子・生活者ネットワーク
きだあやの活動を紹介します。

困ったときに、まわりの人や社会にサポートを求めたり、SOSを出しやすい環境がなければ、しくみや制度が整っていても役に立ちません。核家族化が進み、多世代の人との関わりが減っていく中で、世代をこえて、みんなが集い、ゆるやかにつながる場をつくりたい。

人はひとりでは生きられません。普段の生活の中でお互いの個性や違いを認め合い、多様な生き方や文化を尊重して共に生きる社会をめざします。

なるみゆりと交代

ひとりにはない
子育て・介護
支えあい分かちあう
地域共生社会へ

木田

八王子・生活者ネットワーク
政策委員



八王子・生活者ネットワーク きだあやの提案

大事なことは市民が決める



■ **子どもの学び・遊びを保障する**

- ・自己肯定感を育み、互いの人権を認めあえる教育をすすめる

■ **見えない害から子どもを守る**

- ・香り付き商品の成分による健康被害「香害」の危険性を周知し、消費者の意識改革をすすめる
- ・化学物質、電磁波の子ども基準をつくる

■ **八王子版生物多様性地域戦略を市民参加でつくり、活かす！**

- **多様性を認め合う共生社会をつくる！**
- ・同性パートナーシップのしくみをつくる
- ・多様な働き方を保障する

■ **障がいがあっても共に働き共に生きる**

■ **若者が希望をもって働き・生きるまちに**

■ **原発ゼロ！食もエネルギーも地産地消**

- ・学校・保育所など市内施設で地場野菜の導入をすすめる
- ・地産地消をすすめ農地を守る

■ **多世代に開かれたコミュニティを実現する**

- ・空き家を活用し、身近な地域に多世代が集える多機能型の居場所をつくる
- ・公園や緑地を活用したコミュニティの活性化をすすめる

■ **子育て・介護をひとりにしない**

- ・子どもケアラー、若者ケアラーの実態把握と、ケアラー支援、相談機能のしくみをつくる
- ・安心して外出できるよう移動の確保を保障する

■ **減災、防災対策は環境・福祉優先で**

■ **事業や開発、まちづくり計画の意思形成段階からの市民参加を保障する**

■ **憲法を活かし、地域から人権・平和を守る社会をつくる**

ケアラー支援をすすめ、子育て・介護をひとりにしない

介護保険の見直しは、その人らしく、住み慣れた地域で暮らし続けるためのしくみづくりとは反対の方向に進んでいるのが現状です。必要とされている「介護の社会化」と逆行し「家族介護」が進む中、介護者（ケアラー）は心理的負担や離職による経済負担、孤立感による虐待や殺人、心中につながりかねない現実があります。近年は子どもが学校に行きながら、病気や障がいのある家族のケアをする、子ども・若者ケアラー（ヤングケアラー）や子育てと同時に親の介護を行うダブルケアなどの「複合課題」の問題も注目されています。ケアラーの負担はとても大きく、渦中にいる時には、周囲にSOSを出す余裕さえないとされています。ケアラーを支えるための支援だけでなく、ケアラー本人の人生を支えるための支援が求められます。

（一社）日本ケアラー連盟が南魚沼市や藤沢市の教育委員会の協力を得て、学校教員を対象として行った、ケアを担う子ども（ヤングケアラー）についての調査から、きょうだいのケアを小学生の時から担っている子どもの姿も浮き彫りになっています。支援を求める手段を知

らないまま、介助・介護を担い続け、自分の可能性を狭めてしまう実態も明らかになってきました。

生活者ネットワークは、まずはこのような実態調査をすすめ、市として福祉施策の中にケアラー支援を位置づけ、具体的な対策を進めるよう提案していきます。そして、子育て介護の家庭を孤立させず、地域で支えるしくみをつくっていきます。



Information

「はつらつスタート集会」
きだあや 2019 政策発表集会
2019年1月20日(日) 14:00～
由井市民センター 2階多目的室(片倉町702-1)
(JR片倉駅 徒歩3分 京王線片倉駅 徒歩5分)

「はつらつ市民集会」
2019年4月6日(土) 17:00～ JR八王子駅北口